かがさんけんしょうじ

加賀山乾性寺寺報

２０２３年１月号

新快速電車が停車してくれるＪＲ高槻駅から徒歩１５分。このように聞くと決して悪くない立地ですが、上空から見ると上の写真のようになっているので、やはり便利とは言い難いでしょう。

バリアフリーという概念がいまだに導入できない自然豊かな寺院。それが、我らが乾性寺です。

唐突かもしれませんが、世間では、お坊さんと言えばずっとお寺にいて、いつでも出迎えてくれる人という感覚が根強いようです。

ただ、このような舗装されていないデコボコ道を毎日出入りしていると、思わずにはいられません。それは、乾性寺に来ることができるというそのこと自体が、その方が恵まれた健康体であるというひとつの証拠ではないかと。その恵まれた肉体を持つ方の中でも、さらにご縁を授けられた方は、お題目を唱え、お経を読み、新しいお友だちに出会うことになります。

しかし、本当に困っている人は、とても来られないし、そもそも来ようとも思わないでしょう。仕方がないと言えば仕方がないです。ですが、果たしてそれでよいのかは難しいところだと思います。お寺に来られる方の対応をしていれば、それで充分使命を果たしたことになる、でしょう、か？

ひとつ、はっきりしていることがあります。それは、お寺を動かすことはできませんが、中にいる僧侶は自分の意志と仏縁で動くことができるということです。微力ですが、私たちにも何かできそうなことがありましたら、声をかけてみてください。

昨年の報告（寺院など）

【日蓮聖人七百五十遠忌】

二〇三一年（令和十三年）は日蓮聖人御入滅七百五十遠忌となります。まだ先ですが、盛大な報恩を行うべく、準備を始めております。次頁以降に詳細を載せております。

【写経の教室】

地元の書道教室の方から打診があり、七月三日に写経会を開きました。

十名の方にお集まりいただき、一時間ほどかけて法華経の「序品第一」の一部を書写しました。次は二月に開催予定です。

ご参加を希望の方は、ぜひお声がけください。

また、教室という形のみならず、自由に写経に取り組める機会を今後設けていきたいと思います。

【日蓮聖人御降誕慶讃法要・管区大会】

二〇二一年二月十六日は、八百回目の日蓮聖人の御降誕会でした。

そのため、当山では昨年の六月から四度、慶讃法要を開きました。

また、乾性寺でのこの経験を活かし、十一月二十七日に茨木市妙徳寺さまで開催された大阪府三島管区の法要にも参加させていただきました。この際、檀信徒の皆さまから多くのご志納を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

【お経本】

お経本を自作しています。

コピー用紙を冊子状に印刷したものですが、質は低くないはずです。初心の方にも使いやすい作りですので、入用の方にはお送りします。

【工事関係】

近年の大雨により、建物の雨漏りが酷いので、屋根の改修工事をします。

こちらも慶讃事業の一つとして組み込んでおりますので、今回の寺報にて紹介しております。

【あんのん基金】

昨年度は一〇七、四二〇円でした。

昨年も多くの方にご協力をいただきました。ありがとうございます。

切り上げ、十一万円を寄付しました。

【お願い】

お墓参りなどでお寺にお越しの際は本堂に合掌一礼をお願いします。

２０３１

日蓮大聖人御入滅七百五十遠忌

１０月１３日は日蓮大聖人のご命日です

上のような看板を寺院の敷地に掲げております。

なぜわざわざ掲示する必要があるのか、そもそも自分に関係があるのかと、疑問に思われる方も少なくないと思われます。

このことについてはまた機会があればお伝えしたいと思います。

遠忌は十年ほど先の話ですが、すでにいくつか報恩事業を始めております。

様々な分野に力を注ぎたいと考えています。

次のページより、現在進行中の活動の概要をご紹介します。ぜひご覧ください。

日蓮聖人がこの世を去られたとき、季節外れの桜が咲くという奇瑞が起きたと伝わります。
そのため、今回の背景には桜を用いました。

【常不軽菩薩（じょうふきょうぼさつ）】

法華経第二十章に登場する修行者。お釈迦さまの過去世の一つと説かれています。

この修行者は、出会うすべての人に対して、「私はあなたを深く敬います。決して軽んじません。それは、あなたは必ず仏になるからです」と伝えて回りました。酷く迫害を受けた一方、多くの人々を導いた方でもありました。

傷だらけになっても他者を信じる尊さと、すべての人々に対する憐みの深さを感じ取っていただきたいです。

【長壽院殿妙遠日久大姉】

ちょうじゅいんでん　みょうおん　にちきゅう　たいし

戦国期に鳥居元忠という武将の娘として生まれ、高槻藩主・土岐定義公の母となる人物です。この方の菩提を弔うために開かれたのが乾性寺であると伝わっています。残念ながら、お名前を含め一切が記録に残っていません。

ですが、信仰熱心な方であってほしいと思います。その願望から、真摯さと気高さを意識した作品となりました。

なお、乾性寺の墓地内には、この方のお墓があります。ぜひとも、そちらにもお参りください。

【住職より】

敷地内にこの二枚の大きなパネルを掲げています。ぜひお越しになり、ご覧ください。

【ご紹介】

上村恭子（うえむらやすこ）さま

イラストレーター　一九七七年生

奈良芸術短期大学日本画コース卒

歴史上に生きた女性を描くのを得意としている。平成二十八年より、夫が実家のある奈良県下北山村で僧侶になったのを機に、仏様や仏の教えにまつわる絵を多く手掛けるようになる。

画題【ほとけの国（人）】

【住職より】

非常に精緻な水彩画です。作者の橋賢亀（はしかつかめ）さまには、「雨が降り、汚く荒廃した世界の中、辛うじて白い蓮に支えられている木偶人形を描いてほしい」と依頼しました。宮沢賢治の詩『雨ニモ負ケズ』がテーマの一つになっています。

私たちはみな、この絵の「デクノボー」のように、大きなものに支えられてどうにか生きているのだと考えております。その「大きなもの」が何かは、人によって異なるのかもしれません。ただ、もしもそれが白い蓮（仏さまの大切な教え）であれば、きっと仏さまも、皆さまのご先祖さまも、喜んでくださるのではないでしょうか。

【ご紹介】

橋 賢亀（はし・かつかめ）さま

イラストレーター　児童書、翻訳物を中心に七十冊以上の装画、挿絵を手掛ける。電撃ゲームイラスト大賞金賞、詩とメルヘンイラストコンクール年間佳作賞、コミッカーズイラストマスター展年間グランプリ、ＳＦマガジン読者賞年間イラストレーター部門などを受賞。

Twitter:https://twitter.com/katsukame

【はじめに】

六老僧（ろくろうそう）という言葉を聞かれたことはありますか。

日蓮聖人が弘安五年（一二八二年）にこの世から去られる直前に、後継者となる六人の弟子をお選びになります。彼らは六老僧と呼ばれており、聖人の門下たちは、この六人の高僧の指導を受けて布教に励むことになりました。

現代の日蓮宗の寺院・僧侶の多くが、元を辿ればこの六人のいずれかに行き当たります。

「私たちの先生の先生の先生の……」というように、かなり遡る必要がありますが、その遠さこそが、私たちの信じる教えの息の長さを物語っています。

誠に残念なことに、六老僧の肖像画はほとんど伝わっておりません。

そこで当山では、今ここに生きておられるかのような写実的な肖像画をお造りしたく思い、画家の南健吾さまにご協力をお願いいたしました。

令和四年十二月現在、六老僧のうち日昭上人（にっしょうしょうにん）と日朗上人（にちろうしょうにん）の二名が完成しており、当山の本堂にお祀りしております。

引き続き、残る四老僧のほか、偉大な先師、そして当山に関わりの深い僧侶と檀徒の肖像画の作成に取り掛かってまいります。

今回はすでに完成している日昭上人と日朗上人のご紹介をいたします。

参考までに。

玉沢妙法華寺の
日昭上人（上）

池上本門寺の
日朗上人（下）

【日昭上人（にっしょう しょうにん）】

六老僧の中の最長老で、日蓮聖人よりも一歳年長だったと伝わります。

現・神奈川県を中心とした浜門流の祖であり、弁阿闍梨（べんあじゃり）の名を聖人から賜ります。

時には聖人の代理となって弟子たちを導く長老であり、教団最大の危機の時には幕府との交渉を率先して行い、見事に門下を守ることに成功します。

日蓮聖人入滅時には、聖人がお使いだった経本を形見に受け取りますのでその姿を表した肖像画にしました。

なお、日昭上人は、百歳を超えてもまだご存命だったとされています。

【日朗上人（にちろう しょうにん）】

前頁で紹介した日昭上人の甥で、現日蓮宗の最大の門流である、日朗門流の祖。東京都大田区 池上本門寺などの開山。大国阿闍梨（だいこくあじゃり）。

聖人のことを深く慕った方で、師の流罪のとき、同行を願って聞かなかったため、幕府の役人に右腕を砕かれたと伝わります。

その逸話から、本作の日朗上人の右腕はやや不自然な形になっています。

聖人が佐渡に流されたとき、自身も牢屋に閉じ込められましたが、師を思う気持ちの強さに心を動かされた役人が、ひそかに出獄を許し、そのため数度佐渡に渡ったとされ、ついには聖人の赦免状まで託されたという伝承があります。

日蓮聖人はお釈迦様の立像を自身の持仏として大切にされていましたが、この像は後に日朗上人に形見として授けられたことが記録に残っています。

本作でも、両手で大切そうにお持ちいただきました。

【ご紹介】

南健吾（みなみ けんご）さま

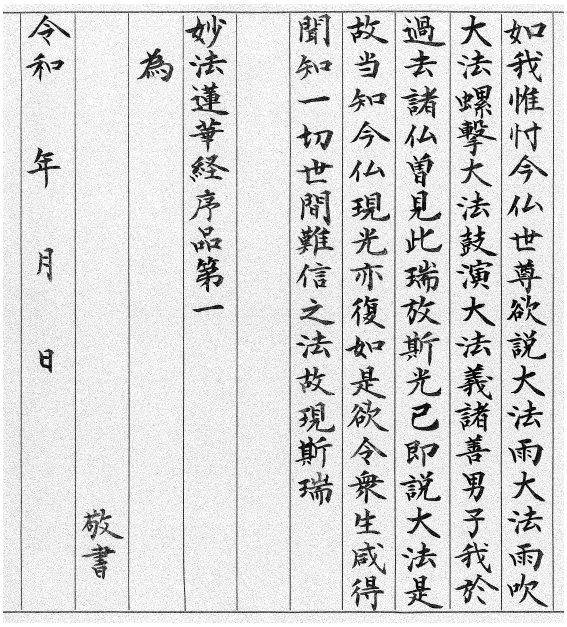
一九八三年福岡県生まれ。東北芸術工科大学・洋画科を卒業し、東京と福岡で展覧会を開く。十二年より四年間渡仏、ボルドーを拠点にボルドー、パリなどで展覧会を開く。日本では行わなかったギャラリー以外での展示や共同制作、ライブパフォーマンスやルーブル美術館での団体展への参加など様々な経験を経て、日本へ帰国。

黒田清輝も滞在したグレ＝シュル＝ロワン市で市長賞を受賞、美術館へ作品を寄贈。ドイツのワイン「ウィンザー・ボン・エルバッチ」のボトルラベルにイメージが採用される。帰国後は特別支援学校で教鞭をとりながら香椎宮でのグループ展を中心に作品を発表。美術と写真制作を事業とした会社「イロみな」を二一年四月より起業。

イロみなHP：iromina.com

作家HP：https://kengominami.com/

YouTube：KengoMINAMI


如我惟忖今仏世尊欲説大法雨大法雨吹
大法螺撃大法鼓演大法義諸善男子我於
過去諸仏曽見此瑞放斯光已即説大法是
故当知今仏現光亦復如是欲令衆生咸得
聞知一切世間難信之法故現斯瑞

妙法蓮華経序品第一

為

令和　年　月　日

敬書

書道講師・奥田朋子先生による手本

【写経会】

写経とはお経を書き写すことです。二千年以上の歴史を持つ伝統的な修行でもあります。

一般的に写経と言えば、般若心経をお考えになる方が多いでしょう。ただ、日蓮宗では般若心経を用いないので、法華経の写経会をしたいという思いがありました。

すると七月に、ありがたくも地元の双葉書道教室の奥田朋子先生からご縁を頂戴し、写経の会を共催する機会に恵まれました。乾性寺の本堂にて、十人の方と書写の修行に励みました。

設備の都合でこの寺報が届くすべての方にはご案内できませんでしたが、当山の檀信徒数名にもご参加いただき賑やかな会となりました。

さらに、十一月六日には、日蓮聖人の命日である御会式の一環として写経の会を開催いたしました。

次回は、二月五日の節分星祭と同日開催を企画しています。

遠忌に向けた報恩事業として今後も引き続き、写経会を行いたいと考えています。

写経の様子

なお、写経の文字数は、四字から可能です。法華経は六万九千三百八十四字を数える膨大な経典ですが、すべてを書き写すのは大変なので、無理のない程度に挑戦してみましょう。

お手本を横に置いて書き写すのが一般的な写経ですが、お経文をなぞり書きする形式でも取り組めます。

ご興味があれば、ぜひともお知らせください。多くの方に法華経の写経をしていただければ、仏さまも日蓮聖人もお喜びになります。また、ご先祖さまも喜んでくださるはずです。

写経で得られる功徳を
ゆるい漫画で説明しております。

【屋根の改修工事】

近年の大雨の影響で、雨漏りが頻発しています。

乾性寺は設計上、どうしても雨漏りが起こりやすく、根本的な解決方法が必要でした。

ある日の雨漏り

これが毎年数度あります
しかもなぜかいつも深夜です

しかしその場合、屋根の高さを変更するしか手段がなく、大がかりさに気後れしていたため先延ばしになっていました。

ただ、このままで放っておけないので工事を始めることにしました。

屋根を下げるために、屋根裏にあったモノをすべて移動させる必要があり、十月～十一月はかなりの時間を片付けに費やしました。

今まで、モノの処分をするときは、自分で回収の日に出すか、処理施設に持ち込んでいたのですが、他の用事も重なって時間が作れそうになく、業者に頼むことにしました。

良心的な業者で、かなり安くしてくださったものの、やはり少なくない出費です。

乾性寺は車を置ける場所から建物に辿り着くまで、健康な方でも五分ほどは歩く必要があります。しかも平たい道ではなく、デコボコした舗装されていない坂道なので、どうしてもモノを運び込むのも処分するのにも人件費がかかってしまいます。

大型のものは極力持ち込まないか、運び込むにしても分解できるものを選ぼうと決意を新たにしました。

捨てるときのことを考えてモノを買うという悲しい消費者生活ですが、この場合そもそもあまりモノを増やすという発想にならないので、実は健全なのかもしれません。

枠線で囲まれたところを解体して屋根を低くします

【よくある質問】

問　私たちは死んだら天国に行くのですよね？　先に亡くなった人は、そこで待っていてくれますよね？

答　檀信徒の方とお話していると、様々な場面で「天国」という単語をお使いになります。

まず、些細なことに感じられるかもしれませんが、かなり大切なことなのでお伝えします。

仏教では「天国」という死後の世界は想定していません。これはキリスト教などのもので、我々の目指す場所とは異なります。

では、この人生を終えたならば、我々はどうなるのでしょうか。残念ながら私も自分の目で確認ができていないことを断った上で、ご説明します。

私たちが今の自分の命を終えると、この世での行いを基に、来世が決まります。生まれ変わるということですね。

次も人かもしれませんし、動物かもしれません。神さまや仏さまの可能性もあります。

その生涯が終わると、また生まれ変わります。このように、何度も生まれ死ぬのが私たちです。

古来、人々は輪廻転生と呼ばれるこの繰り返しが、苦しみであると考えました。ただ、この輪から逃れるには並大抵ではない修行が必要です。

だからほとんどの方は、残念ですがうまくいきません。

しかし、実は簡単に出る方法があります。鍵は仏さまの教えです。

仏さまを信じ、南無妙法蓮華経とお唱えすれば、仏さまのお力により、必ず輪廻から出られます。

しかし、その上での話ですが、あえて留まるという選択肢もあります。

なぜならば、苦しみからの抜け方を知らず、不運に見舞われ、四苦八苦する方が世界中にはまだまだおられるからです。私たちもまた苦しみは数多いですが、どうにか再び飛び込んでいき、支えあうことは、尊い生き方ではないでしょうか。

ところで。

今生で別れた皆さまの大切な方とは未来世で再会できるはずです。今世で出会ったということはすでに縁が強いので、きっと来世でも身近なところで見つかると思われます。ぜひ次でも助け合って生きてください。

ですが、それでも生まれ変わりは大変な苦しみです。ご安心ください。

日蓮聖人の教えには、

「霊山浄土（りょうぜんじょうど）」

という理想郷が説かれています。

お疲れでしたら、一旦そこでお休みいただき、気を取り直してまた戻ってきてくださいね。

昨年の報告（私事など）

【チャプレン】

現在、大阪市内の病院で仕事をしています。

もちろん住職は医者ではないので、治療や投薬は不可能です。ただ、すべての患者がそれらを必要としているとは限らず、あるいは手を尽くしても残念ながら助からない方もいます。

そこで、私たち宗教者が伺うことにより、その方の苦しみに満ちた時間を少しだけでも豊かにしていくことがこの仕事の目的です。

病院や施設などに行き、人々に寄り添おうとする宗教者を「チャプレン」と呼ぶのですが、昨年のはじめから住職も見習いチャプレンとして、少しずつ活動をしております。

私の指導者は、キリスト教の牧師さまなのですが、僧侶が参加していることを喜んでくださっているようです。

【第一子誕生】

七月二十六日、第一子・琴葉（ことは）が誕生いたしました。お盆の行事にて発表をさせていただき、多くのお祝いを頂戴しました。

誠にありがとうございます。

家族一同精進してまいります。

【日蓮宗国際布教対策委員】

日蓮宗宗務院（行政組織）から連絡があり、右の委員に就任しました。

今後の国際布教を考える委員です。

昨年の間に、三度のオンライン会議、一度の対面会議に出席しました。対面会議では様々な人種の僧侶が出席し、日本語と英語が飛び交い、かなりの刺激になりました。

海外で布教活動をしている日蓮宗の僧侶は少なく、さらにはコロナのため、苦境に立たされている方が多く、何かしなくてはならないと思いました。

手始めに海外に向けた情報発信を考えております。おそらく、FacebookなどのＳＮＳを利用することになると思います。アカウントをお持ちの方は、ぜひフォローをしていただき、ご協力をいただけましたら幸いです。

あえてこれまで使わなかったＳＮＳ
そろそろ出番かもしれません

合　掌

今年もよいお年であることをお祈り申し上げます

乾性寺寺報（２０２３年１月号）

電話番号　　０７２－６８１－５９７６
公式サイト　https://temple.nichiren.or.jp/5051013-kenshouji/

ウェブページには、
檀信徒の方への連絡や、乾性寺の動向、住職に寄せられた質問への回答などを記載しております。ぜひご確認ください。

↑からサイトに
アクセスできます